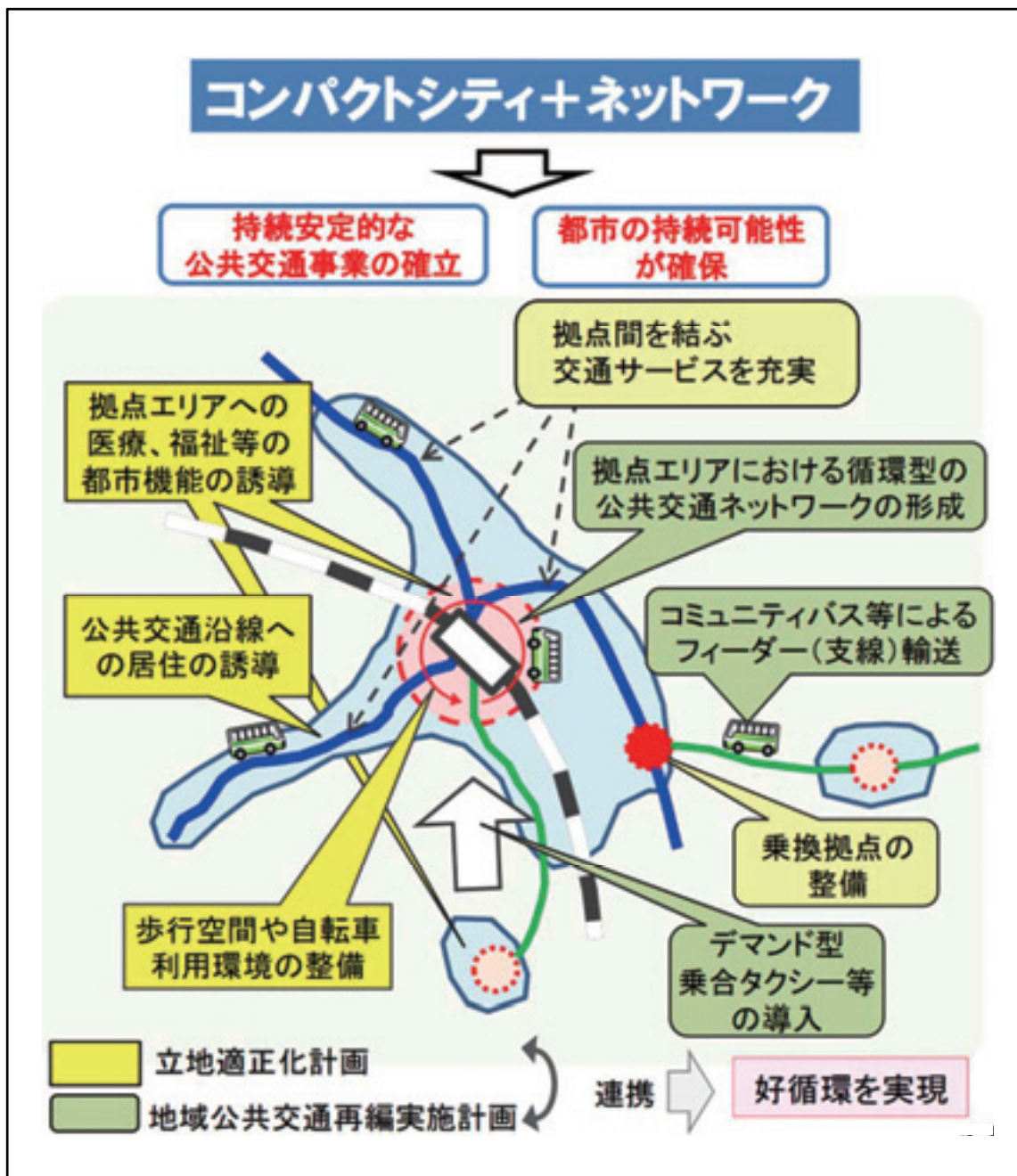


## 第2章 都市づくりの目標

### 1. コンパクト+ネットワークのまちづくりに向けた国の動向

急激な人口減少・少子高齢化に対応するため、居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能を公共交通沿線に立地を誘導することにより、高齢者をはじめ誰もが公共交通を中心として歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを推進していく方針が国から示されました。平成25年12月に交通政策基本法\*が制定され、平成26年11月に地域公共交通活性化再生法\*が改正されました。また、平成26年8月には都市再生特別措置法\*が改正され「立地適正化計画\*」制度が創設されました。

立地適正化計画\*では、公共交通沿線に「居住誘導区域\*」と「都市機能誘導区域\*」を設定し、土地利用を緩やかに誘導します。



(資料/国土交通省)

## 2. 目指すべき都市像

### 2-1. 都市づくりの理念

本町は、古くから交通の要衝として発展してきた町で、南に広大な播磨平野をひかえ、他の三方を美しい丘陵に囲まれ、市街地周辺を住民の生活と密接に結びつけた清らかな水をたたえた多くの池と、文化的歴史的遺産である社寺につつまれた落ち着いた美しい町です。

一方、町土は、住民のための『限られた資源』であるとともに、『生活及び生産の場』で、その利用は住民の生活や地域の発展と調和したものでなければなりません。

そのため都市づくりは、住民を含む町民と行政のそれぞれが、自らの役割と責任を自覚し連携、協働して行われ、住民福祉の向上と町域の均衡ある発展に寄与する必要があり、これを本町における都市づくりの基本理念とします。

### 2-2. 将来の都市像

過去から現在そして未来へとつながる持続可能な都市の姿として、福崎町第 5 次総合計画に掲げる将来像に即し、実現を目指します。

## 活力にあふれ 風格のある 住みよいまち・福崎

平成 22 年に都市計画マスタープランを策定して以降、（都）中島井ノ口線を始めとする様々な施設整備を進めてきました。参画と協働面では、神戸医療福祉大学など大学との連携強化、自律(立)のまちづくり交付金\*の創設、福崎町自治基本条例\*の制定等を進めてきました。

今後、本町は、J R 福崎駅周辺と町役場周辺を町の拠点として、都市機能や公共施設の適切な配置によりコンパクトなまちの形成に努めるとともに、地域公共交通の再編を含めた充実を図りながら、市街化調整区域\*については特別指定区域の活用などを行い集落の活力維持に努めます。また、これまでの長期的な課題である J R 福崎駅周辺の整備を推進することにより、風格のあるまちの顔づくりに努め、駅周辺のにぎわいを創出します。

町の中心地と東西の工業団地、市街化調整区域\*の各集落を、都市計画道路\*を始めとする道路ネットワークで結び、サルビア号などの地域公共交通の充実を図ることにより、誰もが住みよいまちを目指します。また、柳田國男生家を始めとする辻川界隈や七種山などの文化・観光資源に加え、道の駅や春日山周辺の整備などを行うことで、文化・観光資源を生かしたまちづくりを推進し、町外からの来訪者のさらなる増加を図り、活力にあふれるまちを目指します。

### 3. 将来の都市構造の考え方

#### ① 既成市街地と新市街地の共栄

本町では、市街化区域内での人口定着率が低いこと、開発ポテンシャルは既成市街地を避け開発余地の多い幹線道路沿いに強くみられることから、既成市街地の整備の立ち遅れが懸念されます。また、市街化区域内の都市農地は、計画的な都市機能の充実と良好な宅地供給を目指すものと、今後も存続し、生活に密着した農空間として防災農地\*や景観農地\*など多面的活用を図るものとの調和を図ります。都市機能の充実を図る区域では、生活基盤となる道路、公園、下水道等の整備が必要不可欠となります。

特に、両市街地が発展していくためには、市街地の道路整備とあわせ両市街地を結ぶ道路網の構築が最優先で、町域全体をとらえた観点での計画・整備が良好な市街地整備の基礎になります。したがって、幹線道路と地域幹線道路及び鉄道等との有機的な結合を図り、住民の利便性・安全性を向上させることで地域活性化の起爆剤とします。このため、既成市街地では本町の玄関口である福崎駅周辺の商業振興のための土地利用と、J R 福崎駅へのアクセスを強化する道路網の整備により健全な市街地を形成していきます。また、新市街地では幹線道路を活用した土地利用と新たな道路網により健全な市街地を形成します。

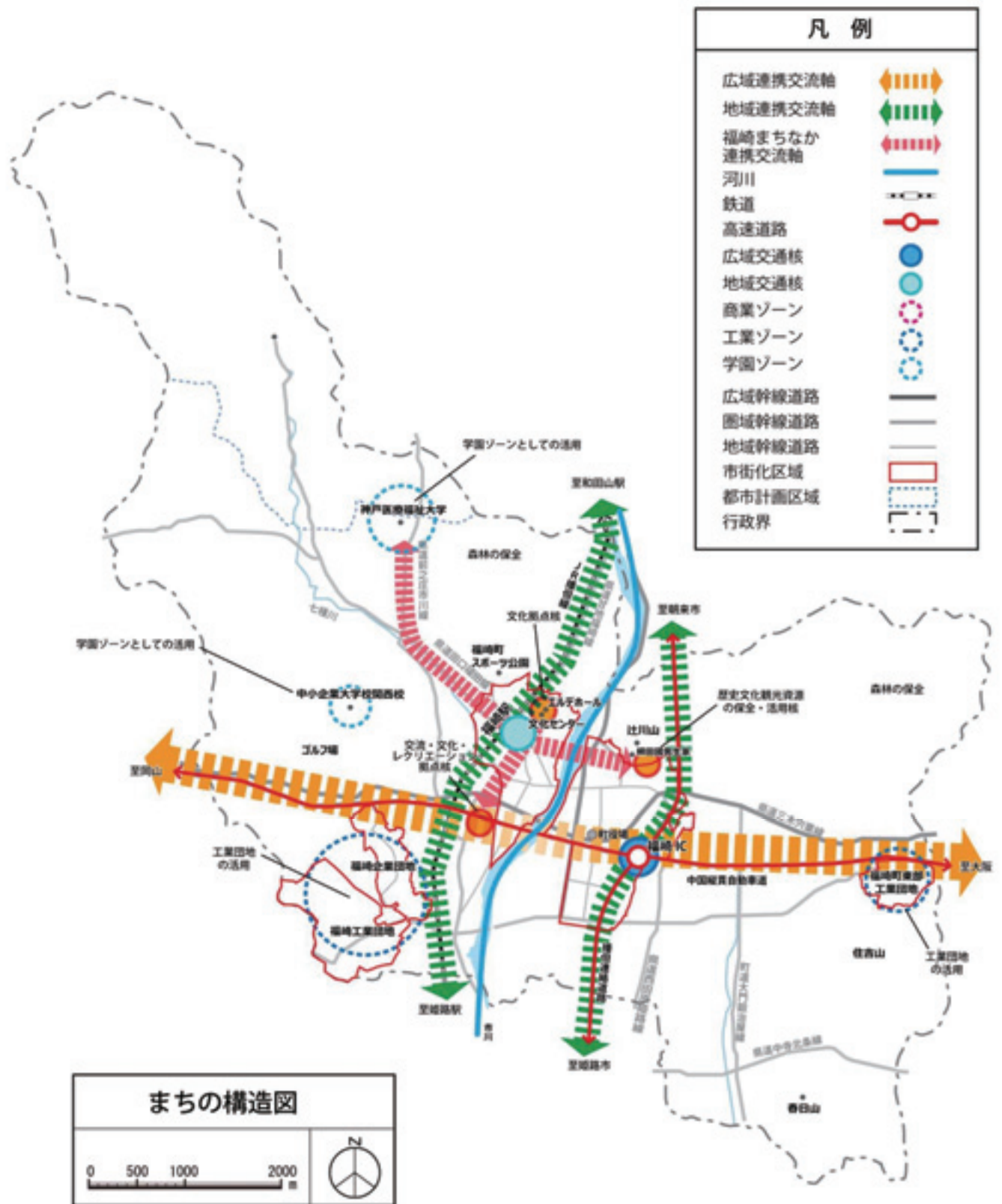
#### ② まちの拠点づくりと持続可能な都市構造の形成とネットワーク化

まちの構造については、国土軸（中国縦貫自動車道）を形成し大阪都市圏と九州方面を東西に結ぶ軸を「広域連携交流軸」（活力の軸）、市川流域から日本海側まで含めた兵庫県内を南北に結び（播但連絡道路・国道 312 号・J R 播但線）、環境との共生を象徴する市川及び観光を象徴する銀の馬車道\*を含めた軸を「地域連携交流軸」（生活・環境・観光の軸）として設定します。また、地域交通核である J R 福崎駅を中心として、市川の東西にある歴史文化観光資源の保全・活用核と学園ゾーンを結び、文化拠点核や交流・文化・レクリエーション拠点核を連携する「福崎まちなか連携交流軸」（風格の軸）を設定します。

#### ③ 安全・安心なまちづくり

地球温暖化の問題をはじめ阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓などから、環境や防災・防犯に対する意識向上や対応が求められる中で、火災をはじめ、地震、風水害、土砂災害などの対策の整備とともに、地域での人と人とのつながりが重視されています。

防災・減災\*については、災害危険個所に対し山地災害対策\*等及び浸水対策などの改修整備を進めながら、日常的な住民自らの防災意識などの向上を図るとともに、災害時には住民自ら安全に避難を行えるように対応を図り、自主防災組織が中心となって安全に避難、誘導を行うとともに、関係機関と連携した防災体制を確立します。



## 4. 都市づくりのフレーム

### 4-1. 目標年次における設定人口

全国的な少子化・高齢化の中で、わが国の人口は減少傾向にあります。このような状況の中で、本町において近年の出産や転入転出などの状況が今後も続くとした 10 年後の人口は、18,400 人程度と予測されています。

福崎町第 5 次総合計画では、良好な住環境の充実や子育て支援を推進することにより、福崎町に住み続けたい、もう一度住みたい、移り住みたい人を増やすことにより、目標年次である平成 35 年の将来人口を 19,500 人と設定しています。本計画における目標年次（平成 37 年度）における設定人口は、福崎町第 5 次総合計画に即して、19,500 人と定めます。

**総人口：19,500 人**

#### ■ 目標年次における設定人口

	人口
人口 計	19,500 人
都市計画区域	18,900 人
市街化区域	10,500 人
市街化調整区域	8,400 人
都市計画区域外	600 人

### 4-2. 都市計画区域の方針

都市計画区域外において開発圧力は顕著になっておらず、今後も大幅に開発が増加するとは見込まれないため、現時点では都市計画区域の変更は行わないものとします。

### 4-3. 区域区分\*の方針

(都) 中島井ノ口線の南進整備が完了し、東側沿道は、開発・宅地化が進んでいます。一方、西側沿道は、市街化調整区域\*に指定されており、優良農地と街路沿道の開発圧力について県や地域住民と調整しながら、魅力ある住環境づくりを進める必要があります。

また本町では、工業機能を西部工業団地と東部工業団地に集積し、優良企業の誘致を進めてきました。すでに全ての工業団地が完売しており、今後の工業用地に対する需要に対応するために、工業団地周辺の市街化調整区域\*の市街化区域への編入など、工業団地の拡張を検討します。

### 4-4. 用途地域\*指定の方針等

現状の利用と用途地域\*が乖離し、将来的な土地利用も用途に合いにくい地域については、柔軟な用途地域\*の見直しを検討します。

### 4-5. 立地適正化計画\*の方針

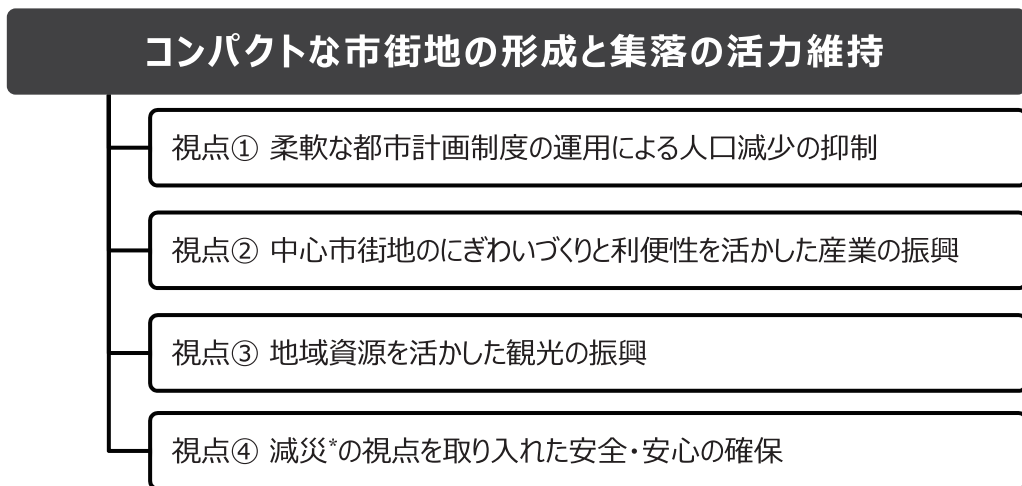
J R 福崎駅周辺、町役場周辺の 2 箇所を都市機能誘導区域\*とするとともに、工業団地、災害の危険性がある場所を除いた市街化区域を居住誘導区域\*として検討します。

## 5. 都市づくりの視点

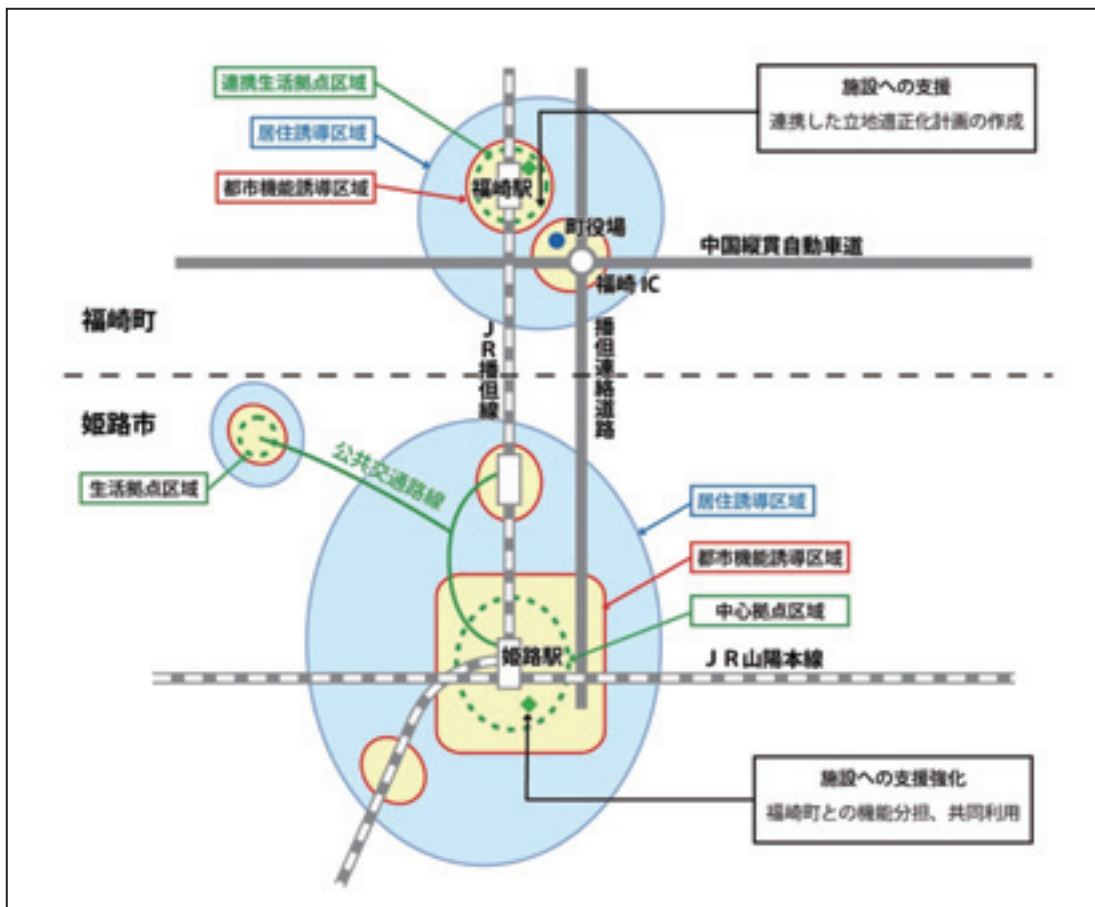
本町は、J R福崎駅周辺や福崎町役場・福崎 I Cを中心としたコンパクトな市街地が形成されている一方で、市街化調整区域\*には旧来からの集落が多く存在し、今後もこれらの集落の活力を維持していく必要があります。

また、本町では担うことができない高次都市機能\*については、姫路市の中心拠点区域\*と連携して機能を確保していく必要があります。

「活力にあふれ 風格のある 住みよいまち・福崎」の実現に向けて、“福崎らしいまちづくり”（コンパクトな市街地の形成と集落の活力維持）を進めていくため、今後本町で進めていく都市づくりの視点を、次のように整理します。



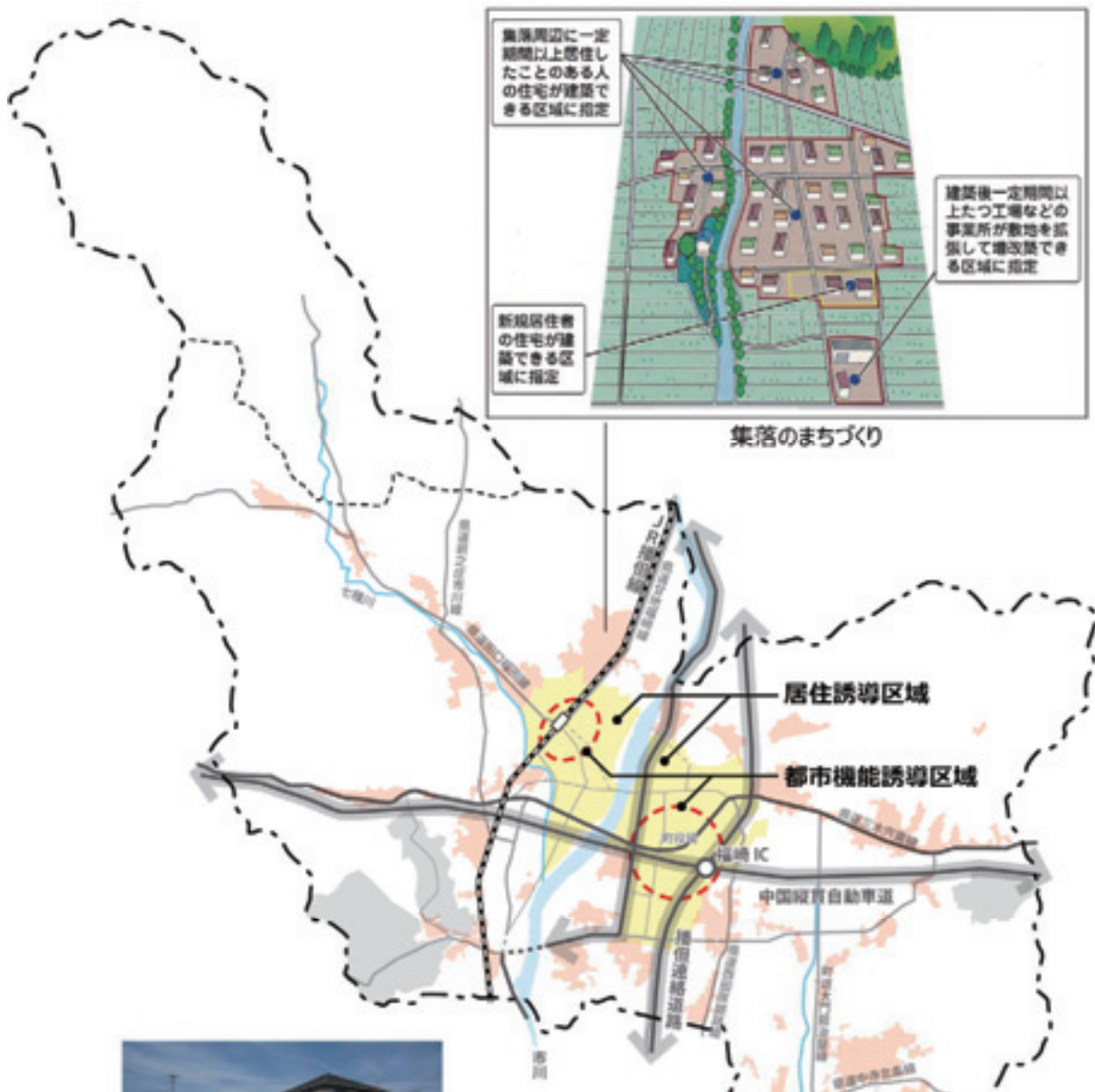
### ■ 姫路市との連携のイメージ



### 視点① 柔軟な都市計画制度の運用による人口減少の抑制

持続可能な都市を構築していくためには、人口の維持が重要な課題です。市街地では、既存の都市施設\*等を再整備し、便利なまちなかの居住環境を確保するとともに、郊外集落地では豊かな自然に囲まれたゆとりある居住環境を整備する必要があります。

高齢化が進む現代社会において、住み慣れた地域で安心して住み続けることができる環境を整えるためには、路線バスやコミュニティバス\*を充実するとともに、市街化調整区域\*では地域に必要な一定の建築を許容するなど、地域の実情に応じた土地利用を誘導する必要があります。



町内巡回バス (サルビア号)

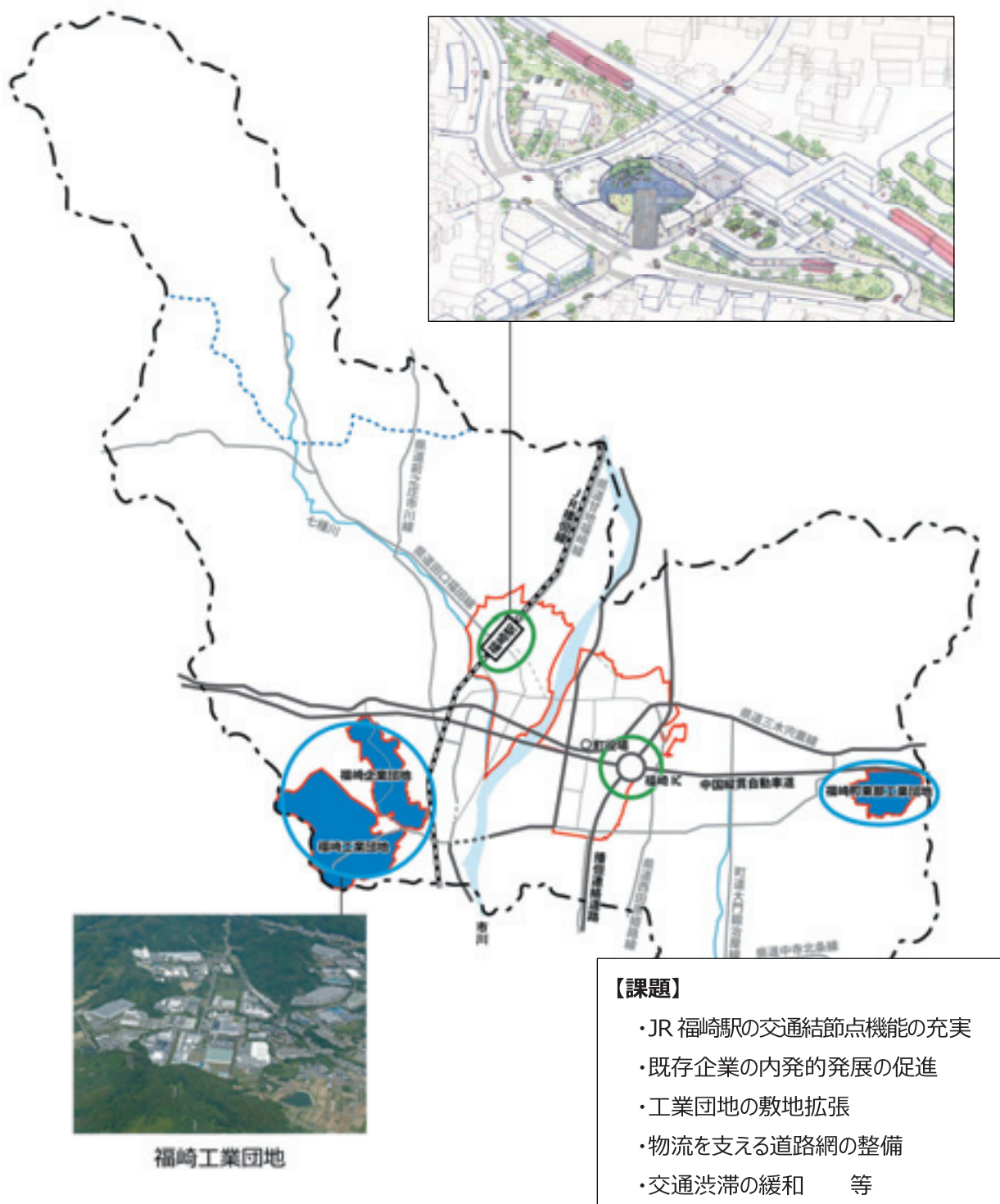
#### 【課題】

- ・立地適正化計画\*の策定
- ・市街化調整区域の土地利用方針
- ・地域公共交通の充実、再編
- ・都市の維持管理コストの増大 等

## 視点② 中心市街地のにぎわいづくりと利便性を生かした産業の振興

本町には、福崎駅周辺と福崎 IC 周辺の 2 つの中心市街地が形成されています。まちの活力を高めるには、福崎駅周辺を観光拠点や町民の憩いの場として再整備し、にぎわいづくりを推進していく必要があります。

本町の産業は、中国縦貫自動車道の開通を機に整備された福崎工業団地を中心とする工業が大きな比重を占め、経済の活性化や雇用機会の創出等の面で大きな役割を果たしています。さらに、福崎町東部工業団地が造成され、立地条件を活かして優良企業の誘致を進めてきました。今後も本町の恵まれた立地条件を活かし、引き続き魅力ある産業基盤の整備や環境づくりに取り組むとともに工業団地の拡張を検討する必要があります。





### 視点③ 地域資源を生かした観光の振興

本町の観光資源・施設は、柳田國男生家や記念館、大庄屋三木家住宅、特産館もちむぎのやかたなどがある辻川界隈を中心として七種山周辺や日光寺山、春日山などが点在しています。平成 23 年度以降は、銀の馬車道\*の沿道である辻川界隈の柳田國男五兄弟や民俗学を生かした観光拠点化を一層図っています。

今後は、町内に点在する既存の観光資源を生かした観光地の整備を進め、県内や近隣府県からの誘客を図ることが求められます。そのため、観光地へのアクセス道路や駐車場の整備、観光情報発信拠点としての道の駅の整備を検討するとともに、観光拠点を有機的に結ぶ観光ルートの設定と農業、商業などを観光的に活用した PR をすることにより、相互の結びつきを強化していく必要があります。



#### 視点④ 減災\*の視点を取り入れた安全・安心の確保

台風や局地的な集中豪雨、南海トラフ巨大地震等による災害リスクの高まりに対応するため、減災\*の視点を取り入れた総合的な治水対策や土砂災害対策等が必要となっています。

また、災害時における安全な避難の確保に向けた総合的な取組が求められており、避難場所や避難路の確保、狭い生活道路の改善、建築物の耐震化、老朽化した建築物や空き家の増加への対応など、地域との協働による安全・安心なまちづくりに取り組む必要があります。

